

平成20年9月10日（水）

○議長（中上良隆君） 順番16、7番 中谷和史君。

〔7番（中谷和史君）登壇〕

○7番（中谷和史君） 議長のお許しをいただきましたので、9月議会一般質問を始めさせていただきます。

まずはじめに、「中心市街地地区整備事業」の進捗状況と、「市街地開発事業の見直し委託」の方向性について、お伺いいたします。

初日に先輩の12番議員が、取り上げていただきましたので、話の都合上重なる部分については、お許し願いたいと思いますが、図らずも2人の議員が取り上げるということは、それだけ市民の皆さまの関心が高いということをご認識いただきご答弁願います。

橋本駅周辺が歯抜けの状態になり躍動感が無くなってから久しく、御殿橋も仮橋のままであり、わずかに紀の川橋北詰周辺の解体及び建て替えが進んでいるようですが、また、先般から紀陽銀行横の、水位計の付け替えから始まり、「紀の川右岸の整備事業」も含め、中心市街地地区整備事業の全体構想の進捗状況について、どの程度であるのか、お教えてください。

また、本年度実施予定に対する残りの工事発注予定等の状況についてお答え願います。

さらに、本年度予算に、「市街地開発事業の見直し委託費」がありますが、どのような見直しをされる計画なのか、地元地区との打ち合わせの状況等について、お伺いいたします。

次に、商業振興及び地域経済活性化のための、特に観光施策についてお伺いいたします。

橋本市の奥座敷「宿り温泉施設整備事業」や、ホテル「ルートイン」の誘致など、周辺状況が整いつつある中で、商業振興及び地域

活性化の観点から、観光客やレジャー客の集客を図る施策・方法をどのように考えておられるのか、お伺いいたします。

昨年も取り上げさせていただきましたが、観光バスや車でお見えの方への観光拠点としての「道の駅構想」、若者が集客できる「ウォーターフロントとしての紀の川の利用」や、観光名所としての、高野山はもちろん、高野山に引けをとらない「観光資源の宝庫としての九度山町」、合併になるかどうかは別にしまして、ごく身近な全国発信のできる観光資源として、九度山町をも取り込んだ発想が、将来の橋本市を考える上で、大変重要であろうと考えますが、基本的な考え及び姿勢、施策について、お伺いいたします。

以上大きく2項目のいくつかについて、お伺いし1回目の質問といたします。

○議長（中上良隆君） 7番 中谷和史君の一般質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（山本重男君）登壇〕

○経済部長（山本重男君） 商業振興等のご質問にお答えいたします。

橋本市は伊勢・大和街道と高野街道が交差する交通の要衝として栄え、飛び越え石、利生護国寺、応其寺、小田井用水などの史跡や清水や高野口に残る屋根瓦の街道や宿場跡は今も私たちに歴史ロマンや旅情を誘い、年々散策を楽しむ人々が増えてきています。

橋本市では、世界遺産・高野山、九度山への交通の通過点にならないよう「橋本基点の滞在型観光拠点づくり」が大切と考えています。市内には神社史跡以外にも玉川峡をはじめパイル織物資料館、キャンプ場、ふるさと体験村、観光農園、へらぶな釣り池など多く

の観光スポットが整備されています。

特に、玉川峡に位置するやどり青少年旅行村は、施設全体の建て替え計画を進めており、将来的には玉川峡の自然を満喫できる橋本市の奥座敷として、地域の観光情報を発信し休憩宿泊ができる「観光交流センター」の整備を進めています。また、周辺の玉川沿いには紅葉などを植栽しハイキングコースを充実するなど、四季折々の自然体験ができ来る観光ゾーンに整備する予定です。

また、市北部の杉尾地区では、全国音の百選に認定された、不動山の巨石への観光客が年々増加し、古代米の田植え祭りや収穫祭も定着するなど山村活性化のモデル地区となっています。

次に、紀の川の水辺空間の活用については、例えば水辺の生物観察教室やカヌー教室などの実施が可能かどうか検討する必要があります。

これらの市内観光スポットと国民宿舎「紀伊見荘」、やどり青少年旅行村、民間宿泊施設などと連携することで、橋本市を観光宿泊の拠点にしたいと考えております。

また、「道の駅構想」につきましては、平成19年6月議会で答弁させていただきましたとおり、現在の財政状況では“道の駅設置”は困難であると考えていますが、国道371号の道路整備が進む中で検討してまいりたいと考えています。

このような中で、9月議会に橋本市観光協会の「観光案内所の事務所移転費用」の補正予算を提案させていただいております。現在のJR橋本駅事務所にある案内所は手狭で利用客から見えにくいため、駅南側にある元JA橋本支店の1階西半分を案内所として利用し、観光物産店も兼ね備えた「観光情報発信基地」としたいと考えています。さらに観光協会では現在「観光ガイド」の受講生を募集

しており、将来この観光ガイドの皆さんに、市内に数多くある文化史跡をいくつかのコースに分けて案内していただくことを考えております。

このように、観光資源を一元的に集約し、観光スポットを観光コースとして整備・情報発信することで、さらなる商業活性化、地域経済の活性化につなげたいと考えています。

○議長（中上良隆君）建設部長。

〔建設部長（樽井豪男君）登壇〕

○建設部長（樽井豪男君）中心市街地地区整備事業のご質問にお答えいたします。

中心市街地第一地区土地区画整理事業の進捗については、12番議員にお答えしたとおりですので、説明につきましては割愛とさせていただきます。

また、本年度残りの予定といたしましては、工事発注はありませんが、③ゾーンと御殿ゾーンの移転対象物件17件を見込んでおります。

特に、「紀の川沿い区域の進捗」状況につきましては、国の事業で行う紀の川護岸整備（歴史街道のまち橋本かわづくり事業）は、橋本周辺の歴史的資源や自然など、地域の特徴を生かした地域に根ざした事業であることから、これまで、地域と行政が整備の方向性について話し合いを重ねた結果、平成19年12月に基本計画が策定され、本年4月に護岸整備に関する工事説明会が開催され、この秋より工事着手、平成22年度完了に向けたスケジュールが発表されております。また、同地区の区画整理事業は、現在、仮換地指定に向けた話し合いを行っており、護岸整備と整合を図る上で、本年度中の仮換地指定とあわせ関係者に移転計画を発表する予定です。

次に、「市街地開発事業の見直し委託」の方向性についてであります。見直し計画による「休止区域」は、「平成21年度より検討を加え、平成24年度には整備方針を出す予定で検

討時の財政状況によっては中止の可能性もある」との説明を行っております。

見直し計画発表後、「休止区域」の整備については、建物の密集、老朽化を始め、中心市街地の空洞化、低未利用地の散在などといった問題が山積しており、このような問題を解決するため、平成21年度よりの検討に先立ち、本年度は事業管理として専門的な技術者1名の委託により、見直し検討に必要な諸課題を整理し、現状把握に努め、見直しのあり方を見極めることを目標に作業を進め、次年度よりは、関係者との話し合いを十分行い、その結果を把握した上で関係機関である国・県との協議を進めたいと考えております。

関係者の皆さまのご理解を賜りながら、計画の見直し作業を行いたく、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君、再質問はありますか。

7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）それでは、まず、再開発事業のほうからお伺いしたいと思います。

一昨日の説明では、第1工区は24年完成というふうにお伺いいたしましたけれども、その折、多分御殿橋の話もあったかと思うんですが、現在の御殿橋周辺の、とりあえず御殿橋、今、仮橋のままですけれども、そのかけ替えと、そのあたりの国道の24号のおそらくかさ上げが1mほどあるんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺のところのご説明のほう、よろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）御殿橋の関連工事につきましてお答えいたします。

24号の御殿橋につきましては、この8月に入札が済んでおりまして、御殿橋の下部撤去と新設工事の入札が済んでおります。工期につきましては、来年の3月末予定と聞いてお

ります。

なお、今年度、まだ発注予定であります、御殿橋の上部工の作成の発注を行うということで聞いております。

続きまして、上部工の仮設工事ですが、平成21年度発注予定と伺っております。なお、国道とのかさ上げにつきましては、再度御殿ゾーンの中で今仮設の橋がかかっていますが、再度、今よりも少し仮設道をまた南に振った中で、北の歩道のほうを整備すると。それと、橋本川との取り合わせにつきましては、御殿ゾーンの中にまた仮設の取り付け道路をつけた中で、また橋本川に向いての盛り土という三段階の形になると思います。

以上です。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）そうすると、21年度上部工で、あと三段階でということでしたが、紀の川橋北詰の交差点あたりまでほぼ完了するのは、やっぱり24年ぐらいということになるのでしょうか。その辺のところを。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）今、国のスケジュールによりまして、今現在の段階では、平成21年度から国道整備ということで、22年度にかけて行うということとなっております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

それで、まず、護岸の歴史街道の中で、以前、相当前ですけれども、あそこの護岸をとという歴史街道のまちという話があったときに、紀の川の護岸整備を行ったときに、今の旧の国道の南側の街並みを歴史のまちに建て替えるというような話もあったと思いますが、それが最近なくなっている、もう江戸のまちとかいうのはなくなっていると思うんですが、何か建て替えについての規制のようなものはどんな形でやっておられるのか。江戸の

街並みとか、まだそういう形でやられるんですか。そういう形じゃないんですか。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、紀の川ゾーンの中に、一応、重要文化財のものがありますので、それにつきましては引き屋等を行いながら復元工法で考えております。

まず、紀の川護岸につきましては、親水護岸を設け、そこに魚が入って生息するとか、それと、まず、ここは昔塩市が盛んでございまして、川の港という形もございまして、紀の川の整備工事の中でばんどこという形の船たまり場みたいなような形の整備をさせていただけるということになっております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

次に、再開発事業の見直しで、多分資料の整備、課題の洗い出しということのようでございますが、旧市区域の中で既に歯抜けになって、本当に、特に駅前の周辺、本当に商売がやりにくい状態になっております。ぜひあいた空き地をどういうふうにするのか、あるいは、21年度から見直しをしまして、24年度という形で方向性をという形でしたら、相当遅れるかなと思いますので、ぜひできるだけ早く方向性をを出していただいて、いい方向に進めていただきたいなというふうに思います。特に駅前のほう、本当に商売人、待ちかねておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

そうしましたら、こっちのほうはもうお話ししまして、次の商業振興のほうで、杉尾の不動石等々のお話もございまして、年々入り込みの観光客が増えておるといふことでお伺ひしておりますけれども、昨年ぐらいの数字はつかんでおられますか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）市内の国民宿舎紀

伊見荘、それから青少年旅行村、ひこばえの里、それから旅館組合の9件の合計の状況でございますが、平成19年の1月から12月までの宿泊者数につきましては、2万6,661人というふうな方が宿泊されております。それから、日帰りの客については、91万3,153人と、1年間に橋本市内に訪れてくれております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

実はその資料を探してございまして、頑張る地方の応援プログラム、さっき阪本さんも言うておられましたけれども、その中に観光振興交流プロジェクトということで継続で、何で8月27日に突然地方プログラムがホームページに載ったのかわからんですけども、その中の観光客、目標が、17年度77万69人から、23年度で80万8,000人の目標で上がっております。今のいただいた数字の観光客の入り込み数字でございましたら、もう既に18年度で98万人、19年度で93万人ということ、もう達成されているということになるんでしょうけれども、何かこれ、統計の数字、変わりましたですか、統計の基礎の、入り込み数の。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）これにつきましては、平成19年の和歌山県観光客動態調査実施要領から出してしております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）17年度以前の、こっちの市のほうの統計要覧のほうで、17年度から前の資料を見ますと、17年度で77万人なんですよ。いや、もうそれは達成できていけば言うことないんですけど、きのうちょっと見ていまして、こっちのやつですね、今、インターネットで出している。これが市内の観光者数も入れているというふうには書いてるので、17年度以前はどうだったのかなという、そのところです。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）平成17年度以前については、ちょっと把握していないんですが、今ご答弁させていただきました数字につきましては、市内の観光施設等にご協力をいただきまして、平成19年度の観光客の実態調査をさせていただいた結果に基づきまして答弁させていただいたものでございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。増えていることは非常にええことなんですね。なんですけれども、ただちょっと市内の観光、市内の方が観光スポットへ行ったら、数字もカウントしていますよというただし書きが入っているのだからちょっと確認をさせていただきました。

実際できるだけ観光客、観光客というのか、レジャー客というのか、本当に商業活性化といういろいろな切り口があるわけなんですけれども、観光から切り口を求めた場合に、いろいろあれがあるかと思えますけれども、今度、観光案内所、移転していただいてより力を入れていくんだということで、非常にありがたいご答弁をいただいたわけなんですけれども、打ち合わせの中でもいろいろ思ったことなんですけれども、今までそういう観光案内所を置くのはいいんですが、例えば、旅行会社、JTBやら近ツリや、あるいはJR、南海といった旅行会社と、いろんなこういううちはスポットがありますよという中で合同の観光、例えば、関空から高野山へ行くまでの観光の打ち合わせとか、そういうようなこと、そういう会議があれば本当に道の駅の重要性とか、そういうことはわかっていただけだと思うんですけど、そういうような会議を、多分ないと思いますが、企画されたことがあるのかどうか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）ただ今のご質問の、

JTB、それからそれ以外の旅行会社等の観光資源を活用するについての協議というのは行っておりません。ただ、観光案内所でございますが、今の観光案内所は駅から見にくいと。それから、面積も少なく小さいために、ちょっと目的が達せられないと。物品販売もできないというふうな状況になっている中で、観光協会とも協議いたしまして、それで向かいの南側のJRの跡地のほうへ、後のビルのほうに移転する形になったわけですが、ごめんなさい、JAです。

これを活用していくにつきまして、これから地元の産品なども販売していくと。それにつきましてには観光協会と調整をしながら進めていきたいというふうに考えております。

それから、もう一つ、橋本市にとってええチャンスというふうにとらえておることがございます。というのが、来年の春ですけれども、南海電車が観光列車を橋本駅から極楽橋まで走らせると、そういう計画がございます。それで、私どものほうで南海電車のほうへ電話をいたしまして、何か考えていることがあるんですかと、物品販売とか、記念品とか、そういうことがあるんですかということで問い合わせました。

ところが、担当者のほうではまだ調整は進んでいないということで、そういうことであればうちの、橋本市のほうから南海電車のほうへお声がけをさせていただいて、何かさせていただくということも視野に入れて考えております。観光協会のほうでやっていただくというふうなことも考えてやっていきたいというふうに考えております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。非常に心強いご答弁をいただきました。南海のその件も言おうかなと思ったんですが、先言っていたいただいたので、ぜひこの機会にフリ

一切何か何かで橋本駅でおりにていただいて、観光案内所まで無料で、途中で1回休憩をしていただいて、乗り換えの前に寄っていただけるような時間帯をとっていただくとか、そういうあれをお願いしたいなというふうに、企画をお願いしたいなというふうに思います。

物品を並べて売る準備というのは、これは、ハードの準備はすぐにでもお金を出せばできるんですけど、一番大事なのが、結局、卵が先か鶏が先かという話になるのかもしれませんが、どれだけ人が来てくれるかということですので、売るほうは商売人、人がたくさん寄れば商売人、勝手に自分ら売るものを持ってきて売りたいという話になると思うんですけども、市としてはやはりどれだけ情報発信して、橋本市へ来ていただけるかということが非常に大事なのではないかなというふうに思うわけです。

先ほどのご答弁の中で、道の駅に関しまして言うなれば、昨年の6月の、私が最初の質問で道の駅ということをお尋ねしましたところ、財政的に非常に難しいと。今回、経済部長、かわられ、課長もかわられ、新しい体制になられておりますので、応援のエールの意味でこの質問を再度取り上げたということなんですけれども、その昨年の答弁の中では、ナビゲーターで、ナビシステムで検索すると、480号が出てきて、高野山へはそっちのルートになっちゃうんですよ。それは仕方ないんですよというような、これ、私、一生忘れられへんと思いますけども、そういうおよそ橋本市ではないという答弁を言われたんですけども、それは、本心はそうではなかったと思いますけれども、そういうことではなくて、確かに向こうの道が便利になりますけれども、それ以上の魅力をこちらのほうで発信して、そして、ぜひこの京奈和自動車道の橋本インター、あるいは高野口インターのと

ころでおりにていただいて、そして、高野山へ行く途中、寄っていただけると。なぜ道の駅というかといいますと、先ほど旅行会社と共同でという話をさせていただきましたけれども、本当に関空からバスでこっちへ来ると、3時間以内にどこかに休憩の場所がなかったら、しかもトイレ休憩の場所がなかったらいかんということで、ちょうど高野山へ登る入り口の橋本市として非常にいい場所にある。それは通過の観光客でありますけれども、そういう方を一時的にでも橋本市へ寄せていただくというような方向性、施策を打っていただきたいなというふうに思います。

実際、予算の都合もあるやろし、資金的な問題、また、用地の問題もあろうかと思いません。私らが橋本商工会議所でおるときに、一番考えておったところに、今、パチンコができてしまいましたので、これはもうどうしようもないなと。そこから先の、次の候補地として、今で言う市道清水西畑幹線道路の周辺ということで思っているような形なんですけれども、その辺は全く道の駅を設置するような可能性というか、将来展望はないものか、今、市長、ちょっと一言言っていたので、よろしかったら。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）中谷議員の質問にお答えしたいと思います。

時間が割合とあるようでございますので、この時間、ご指名いただきましたので、時間をちょっと拝借して、道の駅だけやなくしてちょっと申し上げたいと思います。

道の駅はよくわかるんです。これは私の構想では、やはり杉村公園の隣接したところへ1箇所ぐらいは将来は、371号ができた時点には、やっぱりそういうトイレ休憩から、いろいろバラエティーに富んでいくべきだとい

う構想と、西畑地区、これはやっぱり道もないのに、今、道の駅の話をしていてもいかなので、将来構想としては道が見通し立った時点で、やっぱり展望のいいところでしていくべきだという考え方は持っているわけであり

ます。
さて、ちょっとよろしいですか、ほかのことでも。観光関係についてでございますけれども、私は金を、一般質問で、これ要る、これ要るということで使うことは非常に建設的に発言があるんですが、中谷さんのことについては金もうけの話でございますので、私もちょっと力が入っていますので、部長から大筋説明をいただいたわけでございますが、中谷さんのお許しを得て、時間をちょっとお借りしたいと思うんです。

九度山の真田幸村、丹生官省府とか、慈尊院に比べますと、これは世界遺産の部類でありますので、橋本市はなかなかそこまでのレベルではいかないというのは、これはいたし方ないわけでございますが、やはりないところは掘り起こしていくということが大事やと思うんです、施設がね。

代表的なものは、今、私が見ておりますのは恋野、恋野地区は夢あじさいの観光園、アジサイの。これは将来、浮御堂から始まってあらゆるものが展開しておるわけでありませうけれども、これは将来は非常に誘客としては市内最大のものになるんやないかなということを今見ておるんです。これはすごいです。糸の架け橋とか、中将倉とかいろいろたくさんしていますが、地元の熱意やと思うんです。何とか掘り起こしていこうという熱意、これには評価していくべきだなと思うんです。

その一つに、杉尾から、申し上げたかな、3年前にあの上の休憩所が燃えましたので、それで、区長やら皆さん、5人ほど来まして、してくださいよと言われました。また燃えた

のでつくってくださいよと。何ぼでつくったんか、予算を見ましたら830万円でした。そんなこと、燃えたからつくってくれて、そんなこと簡単にいかんとはねたんです。

しかし、何とかと言うし、たまりかねて、地元でつくってくださいよと申し上げたんです。とてもやないけども高齢化しとるし、そんなんでできませんということでした。私も協力するさかいにということで、そして、去年の秋でしたか、区民総会に全部来てくれまして、そして、私、行って、2時間半ほど話し合いをしたんです。

ところが、高齢化して、とてもあの635段の上に、みんなものを担ぎ上げて、とてもやないけども言うんですが、私はそれやったら責任持って、地元の協力もいただきながら市挙げてやりますよと言い切ったんです。そうしたら、また、秋の柿とりできやんさかいと、そんなときにはあかんとか、これは大分いろいろ、3時間議論しました。最後に、市長がそこまで言うんだったら協力、地元でやるよということで、私も責任あるから。

去年の秋から、これは間伐材を全部利用するように、山主に来てもうて、私、全部それを印しまして、市の職員も手伝っていただいて。そして50本ほど印をして、それを、間伐材を使ってそこへ建てたんですよ。ようよう完成になりました。私も十数回、休みごとに行って、職員の皆さんも延べ125人ほど行ってくれました。これには私も不祥事を再々起こす中で、名誉挽回せないかんと。これは、共同ということが前に立てまして、それで、市民と職員と一体となって、私らは最初、奈良の大仏ぐらいの大きなものだったら私も力ないけれども、その程度の休憩所ぐらいだったら、800万円ぐらいだったら、1割で、私、やってあげると言って、そして、県の森づくり税で、あれをちょうど1割、80万までいただ

くようになりまして、内定をいただきました。市のお金は使っていませんよ。県のお金で、それでやるようにして、今や完成したわけです。

それには、私は、地元で、木のもので830万かけてかかったら、暖とったら燃やされてしもた。今度は200年、私、持つように、白壁で、しっくい固めたるさかい、もうそれは、職員も皆、カベスアミも皆、私、指導しまして、職員も皆行って、カベスアミから壁塗りから、どんどんやってもうたんですよ、今年の4月。去年の兆しからですな。

そんなん自慢やないですけども、やっぱり地元の熱意を駆り立てて、それで、私は市の職員には感謝しておるんですけども、屋根替えだけはかわら棒やから、50年にいっぺんずつ屋根替えをしなさいよと、それは区長、申し送っておいてよと。壁は火をつけても燃えやんようにしてますから、それで200年持つと私、言うてあるんです。200年。それも1割ですわ、これは奉仕でしとるわけですわな。これからの時代というのはそうならないと、行政が立ち行かないんですよ。

これから次に、一つ終わって仕上げをしました。1回、見ておいておくれよ。それは、下からコンクリの何、砂利から、コスからセメン、職員の人、歯食いしばって、20キロあるやつ。何回も上まで上げて、これは大変でした。私も大分心配してましたけども、やっぱり職員の若さで完成したことは喜んでおります。

次にやっていくのには、今度は三石山、御幸辻はまた熱を上げまして三石山。これも観光客、杉尾もどんどん観光客が増えてきておるんですよ、田植え祭、収穫祭やね。今度は三石山も増やそうということで、そして相談の結果、御幸辻がものすごく熱入っているんです。これも県の費用で、森づくりデーでひ

とつやっついていこうということで、今、辻の区長や地元と、富岡さんも地元やからしっかりしていただいて。

(「岡さんも」と呼ぶ者あり)

○市長(木下善之君)岡さんもおられるし、ありがたいことで、そんなんでどうするかということも相談会をしてまいりたいと思うんです。できるだけ経費を使わんと、そういうものを残して行って、そして、これからのハイキングにどんどん登ってもらう。それによって売店も繁盛するようなことを、一つ提案をしたいと思うわけでありませう。

それから、次にそれが終わりましたら、今度嵯峨谷に手をつけようと思ってるんです。嵯峨谷。あの奥も調査しました。もう密林みたいに、間伐もろくにしていないですな。これを1回、組織をつくって間伐して、森づくりデーの中で、それで今度、また施設をつくっていききたいなと思っておるんです。できるだけ経費を使わずに、自分らが、地元が奉仕とか参画をして、そして仕上げていくということ、こういうことが、私、観光課長をさせてもうたら思うようにするんですが、それはちょっと口が過ぎますけども、そういうことを、今、ビジョンを一つ持っておるわけでありませうけども、できるだけ今の共同ということをご提案しておるわけですから、それをご理解いただきながら誘客していく、図っていくということがいかにやるべきかということをご理解いただきたいなということでございませう。

それから、紀の川の問題で、多分中谷議員から質問があると思ってる、私、ゆうべ寝らんと考えていました。紀の川、あるでしょう。それは、カヌーを浮かべたり、いろいろの、水辺の散策とか、あるいは植物のそういう採集とか、いろいろの何はあろうと思うんですけども、私は大滝ダムがあと3年したら完成

しますので、まず、水の調整は非常に均一化する。そうした中で、紀の川、幹線があるんですが、横へ止水してもうて、ずっと、1キロ以上。そこへはアユからアナゴからマスから、淡水魚を区切って、幅3mぐらいか、4メートルぐらいの枝を、これは建設省も許可をいただけるようです。中であってでも構造物を使わない限りは。そこへアユを入れて、水も浄化いただかないかんけれども、そうしたつかみ取りの方法、手法もあるでしょうし、エビをすくう方法もあるでしょうし、植物観察することも、いろいろと水生植物を入れていって、そういうところも全国に何箇所もあるんですよ、全国に。あの北海道の石狩川。これら、日本的に名高いですね。

そういう水辺、紀の川、私は太い感覚でいくと、やっぱり橋本は本流で、そこへ三、四mの幅で枝を探していくと。こんなコイも、そして、橋本の釣りのフナも。淡水魚を全部入れていくというような、そういう自然の動植物園というのか、淡水魚園というのか、そういうことも、やりますとは言えませんが、そういうビジョンを持っておるんですよ。そういうふうにはやれないか。これもあまりお金はかかりません。とにかくノウハウというのか、あるだけの知恵を、職員も議会も一体になって、あらゆるものを出していただいて、その中で妥当性のあるものから拾っていくと。そのことが、そこが第一歩やと、きょうはあえて時間、悪いですけども、ちょっと申し上げておきたいと思うのであります。

それから、やどりの問題は申し上げたとおりであります。したがいまして、これを成功するためには、橋本市からバスをやっぱり直行を1日に何往復か、これをしますとは言えませんが、できた、完成の暁にはまた議会の皆さんとも相談して、そして誘客して、橋本市内の年配の方がふるへ行ってもうて、長

生きしていただくという目標、こういうことも大事じゃなかろうかな。そういうことも思っておるわけでございます。

ほかにもいろいろあるんですが、時間がだんだん迫ってまいりますので、基本的にはやっぱり住民と市と本当に一体となって、他府県からの観光客でお金を入れるということは、これは一番大事なんです。そのことによって市税が入ってくるんですよ。それを一番軸にしていかないかんと思います。固定資産税一つにしても、去年下げたら1億6,000万円下げたんですね。新しい家で、252軒ですか、建ててくれたので4,000万円ほど上がりましたけど、差し引き1億2,000万円ほど目減りしてもうたんですよ。そういうことの繰り返しのまちでは、これは大変困るということで、外貨獲得というのか、よそからのお客さん、それをしっかりと入れていくような、本当にすばらしい、活気あふれるまちづくりを一体になって考えていただきたいということを提案させていただきます。

以上です。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。一度マイクを渡すと返ってこないということがようわかりました。本当に心強いお言葉をいただきまして、ありがとうございます。

ほかにもいくつかお伺いせないかんことを考えておったんですけど、ぜひそういうようなビジョンの中で外貨獲得をしていただきたいと。

和歌山大学の観光学科とか、あるいは、この前もお誘いいただきました、城フェスタへ行かないかということで言うていただいたんですが、紀の川みち広域観光連絡協議会、そういう、せつかく和歌山からこっちまで含めた観光の協議会もあるわけですから、そこらを十分活用していただきまして、また、橋本

市でサッカーとバレーボールとソフトボールかな、九度山はなぎなたとかなってますけど、今度、国体も誘致されると。それらにひっくるめて何とか起爆剤になっていくようにやっていただきたいなど。

それから、カヌーの話も出ておったので言いたかったんですが、市長のほうから、紀の川止水の話も出ました。今度、伏原のパークゴルフ場の整備設計委託のところで予算が出ておりますけれども、ぜひカヌーで遊べる、あるいは、水上スキーが、ちょっと騒音の問題もあろうかと思いますが、若者が本当に水辺で遊んで寄ってきていただけると。我々が若者を追い出すようなことをやっておっては、とてもじゃないけどまちの活性化というのは達成できないと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいなというふうに思います。

あと、もう答弁は結構ですので、要望だけ。本当に新体制の商業観光課、経済部になりましたので、ぜひ本当に、今、市長が言われたようなビジョンの中で、あるいは、今までは予算がないので観光課としてはこれできませんという話やったんですけども、観光課自体がもっと観光に対してはこうですよということを市長部局のほうへ提案して行って、予算は、それは市長部局が考えたらええと。やっぱり観光客を寄せるにはこういうことをやっつけていかないかんよという提案をできるような部や課をめざしてやっていただきたいなということを要望して終わります。ありがとうございます。

○議長（中上良隆君） これをもって7番 中谷和史君の一般質問は終わりました。

この際、2時45分まで休憩いたします。

（午後2時31分 休憩）